



1 介護福祉施設や病院の厨房では、一人一人の状態に合わせた食事を提供2 3 精神科、回復期、高齢者施設と様々な分野で作業療法を展開4 グループを率いる藤井一博理事長。職員とともに地域との連携をより強めることを誓う

20  
LEADING COMPANY

「仁は人の心なり」を法人理念に、地域に求められ愛される医療・福祉サービスを提供するグループ《社会医療法人 仁厚会》《社会福祉法人 敬仁会》。グループを率いる藤井一博理事長は「良質なサービスを提供する上で、人材は最も大切な資源」とし、福利厚生やスキルのアップの支援、笑顔で生きがいを持って働ける職場づくりに尽力する。グループの歴史は1950年代に遡る。仁厚会は、藤井理事長の祖父、藤井政雄氏が鳥取県中部地域に精神科病院がなかったことを危惧し、1956年に民間病院として《倉吉

病院》を設立したのが始まりだ。58年には「鳥取県から、生活困窮者をなくそう」との願いから敬仁会を設立。心身に障害のある人々を受け入れる救護施設《敬仁会館》を開設した。これらの設立に至る考え、そして関わった人びとの想いはグループの精神の支柱となり、偉大な財産として今に受け継がれている。1983年、倉吉病院の患者の高齢化に伴う認知症治療や介護への要請に応じて、民間では鳥取県下第一号の特別養護老人ホーム《ル・ソラリオン》を開設。同じ敷地内に歯科部と内科病棟も新設した。さらに高齢者介護の先に待つ終末期医療を見据え、2003年、山陰地方初のホスピス《緩和ケア病棟》が誕生した。



# 社会医療法人 仁厚会 社会福祉法人 敬仁会

● 医療・福祉



## 地域の人の生涯に寄り添う 医療・福祉サービスを提供

医療、高齢者、障がい者、保育の分野で幅広く展開する仁厚会・敬仁会グループ。設立以来、時代や地域に必要とされる医療・福祉サービスを追求し、2000名以上の職員が各分野で活躍する。



## 職員が心豊かに働くための手厚い支援

事業の拡大とともに職員数も増え、子育て中の職員のために保育施設の運営も始めた。休日保育や障がい児保育、病児保育まで手厚くカバーする《ババール園》は、今では中部地域全体の子育て世帯を支える存在だ。また、2007年には東京都葛飾区に介護老人福祉施設《ル・ソラリオン葛飾》を開設し、現在、東京都内に3つの高齢者施設と1つの保育園を運営している。

グループが運営する施設は、仁厚会が10施設、敬仁会が16施設を数え、職員数は全体で2000名を超える。最も大切な資源である職員が、仕事でもプライベートでも、心が充実し豊かに暮らせるように福利

厚生は手厚い。例えば通院費の助成や、企業年金、奨学金返済支援など多岐にわたる。また、例年職員旅行は日帰り・海外を含む約10コースから選択できる。法人補助があるので費用面でも気兼ねなく参加でき、職員にとっては一年の楽しみだ。毎年開かれるスポーツフェスティバルや、年数回行われる親睦会など趣向を凝らしたイベントも多く、普段顔を合わせる機会が少ない各事業所の職員が一斉に集まり、交流を深めている。

地域に密着しているからこそその福利厚生である。地元の優待サービスは、住宅、日用品、冠婚葬祭と生活の中で幅広く職員割引が受けられる。職員からは「生活圏内で利用できて便利」と好評だ。職員のスキルアップについても積



1 2 障がい者就労支援事業ではシイタケを栽培・収穫。製麺所では牛骨ラーメンの製造も

## 働きやすさ整え良質サービスへ

《敬仁会館》でもICT化を進め、記録業務にタブレットを活用。少しの空き時間を利用して、ご利用者のケア記録を簡単に入力が可能。業務効率化や残業時間削減に大いに役立っている

極的に支援している。資格取得にかかる費用の補助のほか、各種研修への参加を積極的に奨励。職員の学びの機会を多く設け、「成長したい」という気持ちを全面的にバックアップしている。

他にも、職員研鑽の機会の一つとして、グループで独自に《医療福祉学会》を毎年開催。職員が、医療や介護などそれぞれの現場で気づいたことや疑問を掘り起こし、サービスの品質向上に向けた取り組みや工夫、ノウハウなどを研究発表して各事業所の職員と共有。グループ全体のより質の高いサービスの提供につながることも、発表する職員にとっても、自分の考えをまとめて大

勢の前で話す体験は大きな刺激となり、仕事へのモチベーションアップへとつながっている。

また、グループでは地域との交流の機会も大切にしてきた。毎年《倉吉病院》周辺で開催している《ふれあいほとまつり》は50年以上続く一大イベント。ダンスパフォーマンスなどのさまざまなステージイベントを企画し、職員や利用者などが舞台を出して会場を盛り上げている。気軽に地域住民も参加できるとあって、約1000名もの来場者を集める盛況ぶりだ。このイベントを通じて地域の人と職員・利用者が楽しみながら交流し、グループへの理解を深めている。

## 積極的なICT活用で進む業務効率化と負担軽減

ICT化による職員の負担軽減や業務効率化にも注目したい。《ル・サントリオン北条》をはじめ各高齢者施設では、見守りセンサー《HitomeQケアサポート》を導入。天井の行動分析カメラがご利用者を24時間見守り、転倒などの危険を察知すると映像とともにナースコールが職員のスマートフォンに届くシス

テムだ。また、シート型の排泄センサー《ヘルップパッド》は排泄を検知するとスマートフォンに知らせてくれるだけでなく、ご利用者ごとの排泄データを分析。オムツ交換のタイミングを把握できるようになった。この他にも、電子カルテやリアルタイムの呼吸や心拍の状態など、さまざまな情報が一元管理され、スマートフォンで確認できる。これらICT化により、夜勤の巡回などの負担が大幅に軽減されたほか、経験

が浅い職員でもシステムの助けを借りて幅広い業務に携われるようになった。

また、障がい者福祉でもICT化が進む。障がい者支援施設《敬仁会館》は、入所施設の他に、就労継続支援B型、共同生活援助、相談事業所を運営。2024年にご利用者の記録は紙媒体からタブレット端末とパソコンでの管理に移行した。食事や排泄支援、外出の状況などを少しの空き時間を利用してタブレットから簡単に入力ができる。以前と比べて1日15〜30分の節約になり、部署間の情報共有も容易になった。職員の心身の余裕は、より質の高いサービスとして還元されている。

グループでは、保育・医療・障がい者・介護と、地域の人的一生に寄り添い、豊かで実りある人生を送れるように今後も質の高いサービスを提供し続けるとともに、必要に応じて変化する柔軟性も持ち合わせている。藤井理事長は「変動の時代を生き抜くキーワードは『連携』。地域の皆様と職員が安心して暮らせるように、グループや地域社会との連携を強く、深くし迅速に時代の波を捉えたい」と地域のトップランナーを目指す。「誰かの役に立っている」と実感し、自分の適性や可能性を引き出せる職場がここにある。



介護現場でのICT化もめざましい。各職員に支給されているスマートフォンは、さまざまな情報が集約され、送受信ができる。《HitomeQケアサポート》は、室内のご利用者の異変を察知すると職員のスマートフォンにナースコールを発信。画面には部屋の様子が映し出され、すぐに状況を確認できる



### ご利用者に寄り添い、笑顔があふれる介護の現場

高齢者施設は、ご利用者と職員の笑顔にあふれた明るい雰囲気だ。ご利用者が安心して生活できるように、職員は同じ目線に立って一人一人に合わせたケアや声かけを行う。不穏状態になっても、職員はその気持ちを尊重して心身に寄り添うことで、ご利用者は安心感を取り戻している。



### 一人一人の希望や背景に即したリハビリ支援

同じ病名であっても、リハビリの内容は患者様によって異なる。その人が自分らしい生活を送れるように、しっかりとコミュニケーションをとって、心理的状況や希望、能力、生活環境を理解する必要がある。それらを踏まえた上でリハビリのメニューを組み立て、チームで支援する。





## 社会医療法人 仁厚会 社会福祉法人 敬仁会

創 業 〔仁厚会〕昭和30（1955）年11月1日  
〔敬仁会〕昭和33（1958）年6月6日  
代表者 理事長 藤井 一博  
社員数 〔仁厚会〕1060名(男324名 女736名)  
〔敬仁会〕1264名(男422名 女842名)  
本 社 〔仁厚会〕鳥取県倉吉市山根43  
〔敬仁会〕鳥取県倉吉市山根55

### 事業内容

病院、高齢者施設、障がい者施設、  
保育所の運営

### 勤務地(採用エリア)

鳥取市、倉吉市、東伯郡、  
東京都、米子市、西伯郡

### 採用区分

新卒採用 キャリア採用

### インターンシップ・キャリア

有 法人ホームページ、またはリクナビ・マイナビ、とっとりインターンシップのホームページを参照。

### 採用担当者からあなたへ

医療・福祉の業界は私たちの日常の中で欠かせない業界です。  
手に職をつけて安心して長く仕事ができます。「人と関わること・話すことが好き・誰かを支える仕事をしたい」そんなあなたにぜひお会いしたいです。

人事課  
中原 佑さん

採用に関するお問い合わせ先

090-1350-3073

公式サイトは  
こちら



Instagramは  
こちら



## 生活支援員とは？現場職員が疑問に回答！



あまり知られていない生活支援員の仕事。障害者施設や就労施設でご利用者の身体的介助や相談業務などを行う

### 生活支援員は どんな方に向いている？

A. 質の高い支援を提供するためには職員のチームワークが大切です。ご利用者にとっても、支援の方向性が統一されている方が生活をしやすいので、協調性があり、コミュニケーションをとることができる人が向いていると思います。また、人対人の仕事なので臨機応変な対応も求められます。物事を客観的に見ること、例えば「ゆっくりな人」を「丁寧で慎重な人」と捉え直せる視点（リフレーミング）も大切になってきます。

### 生活支援員には どうしたらなれる？

A. 必要な資格や実務経験は必要ないため、福祉関係ではない学生も入職しています。

また、社会福祉士など福祉系の資格が取れる学部だけでなく、若いご利用者も多いことから心理系や特別支援学校教諭を目指す教育学部系の学生にとっても親和性が高いため、学びを深めてから就職したい方も選べる職種です。

また、役立つ資格として介護福祉士や精神保健福祉士など福祉系の国家資格があり、資格取得の支援もあります。

### 生活支援員の仕事って どんな仕事？

A. 障がい者施設や就労施設などで、ご利用者の状態や特性に合わせて、入浴や食事、排泄、居室の整理整頓といった日常生活をサポートする仕事です。施設での生活を笑顔で前向きに楽しんでいただけるように、季節の行事や外出などの企画も行います。

生活支援員の仕事のやりがいは、ご利用者が「また明日も来てね」「おはようございます」と笑顔を向けてくれる時。また、ご利用者のできることが増えることも職員の喜びです。

### 1日のスケジュールは？

A. ご利用者の活動に合わせて介助を行います。日勤だと、ご利用者は朝食後、歯磨きをして10時頃からみんなでコーヒータム。曜日によって入浴もあります。昼食までの時間は好きなワーク活動（パズル、点つなぎ、塗り絵など）に取り組み、昼食後はお部屋で休憩やお昼寝。14時から再びワーク活動を行い、15時になったらチョコレートやせんべいなどの好きなおやつを食べながら茶話会をして、夕食の時間が終わったら退勤です。



困ったときは同じ生活支援員の先輩職員がサポート。職員で協力してご利用者を支援する

## さまざまな職種で活躍する職員たち

### 120食以上を一人一人の状態に合わせて調理。達成感は大きいです！

松田さんは中学生の頃から料理に興味を持ち、栄養士の資格を取得。「地元で食に関わる仕事がしたい」と入職し、厨房調理員として調理や盛り付け、配膳に携わっている。ご利用者に提供する食事は毎回120～160食。刻み食やペースト状のミキサー食など一人一人の状態に合わせて形態が異なる。「異物混入や配膳の取り違えがないように気を付けています。毎回、やり終えた時の達成感は大きいです」と笑顔で話す。厨房スタッフの中で、松田さんは最若手。「先輩方はとても優しく、ためになるアドバイスをくださいます」と丁寧な指導のもと技術を向上させ、現在、調理師免許の取得を目指す。将来的には管理栄養士資格を見据え、前進を続けている。



ル・ソラリオン 厨房調理員  
松田 涼香さん(22)  
2023年入社



### 優秀な人材の採用を通じて貢献したい！

東京の大学を卒業後、ADの仕事をしていた遠藤さん。その仕事観は「人の役に立てるかどうか」。地元に戻って再就職する際も、その点を第一に考えた。現在は法人本部で採用を担当する。「直接、患者さんの役に立つ仕事ではありませんが、優秀な人材の採用などで貢献できれば」と就職フェアや企業説明会で学生や求職者と接する日々を送る。「せっかく興味を持っていただいたので『採用試験を受けて良かった』と思ってもらえるような対応を心がけています」と丁寧かつ緊張を和らげるような口調を意識している。現場は多職種が集まる職場。人員が不足する分野に優秀な人材を投入したいと、前職の経験も生かして採用イベントの企画を温めている。



仁厚会 法人本部人事部  
遠藤 志穂さん(28)  
2024年入社



### ご利用者や関係者と誠実な関係を築いていきたい

地元の鳥取県中部での就職を希望していた長谷川さん。福祉系大学で社会福祉士の資格を取得し、「大きな法人なので、医療・福祉・障がい者支援・保育の分野がそろい、さまざまな経験を積めるのでは」と入職した。最初の2年間は介護職員として働いて現場を学び、現在は高齢者施設で支援相談員として相談、援助、連絡調整などの業務に従事する。「相談員の仕事は、ご利用者やその家族、地域のケアマネジャー、病院、現場職員との関係づくりが大事」と、誠実な対応を心がけて信頼関係を築いてきた。「ご利用者が楽しそうに過ごしているところもうれしいです。相談員としてどうにか一人前になってきたので、ご利用者や関係機関、さらに地域とも良い関係をつくっていききたいです」と充実した表情を見せる。



ル・サンテリオン北条  
入所コントロール室 支援相談員  
長谷川 史加さん(29)  
2018年入社



### 情報の引き出しを多く持ち、その人に合ったリハビリを提供

作業療法士は、日常生活の動作や、社会参加に必要な活動の回復を支援する専門家だ。「病院、介護施設、児童福祉施設、行政機関など活躍の場が幅広く、人と関わるのが好きな人に向いている仕事」と魅力を語る竹田さん。日々進歩している分野であり、勉強会や書籍で知識を蓄え、患者さんに役立つ地域情報にもアンテナを張り、自分の中の引き出しを増やしている。患者さんは高齢の人が中心。リハビリ計画を立てる際は、患者さんの長年の生活や考え方に合わせて、頭の中の引き出しから知識や情報を取り出し、その人に合った計画を提案している。「リハビリを経て『できるようになったわ』と声をかけてもらえた時がうれしいです」とほほ笑む。



藤井政雄記念病院  
リハビリテーション科 作業療法士  
竹田 佳弘さん(37)  
2011年入社

